

授業実践 第6学年 器械運動領域

マット運動 「頭倒立」「側方倒立回転」「ロンダート」

(1) 本時の目標 ◎は重点項目

【知識及び技能】

- ・自分の課題に応じた倒立技ができる。

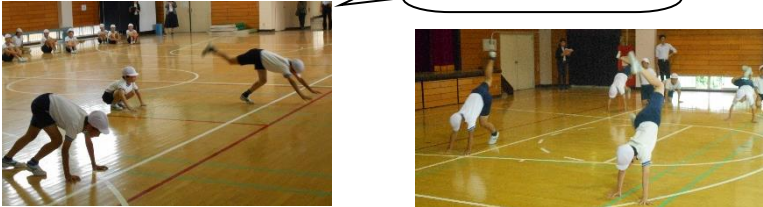
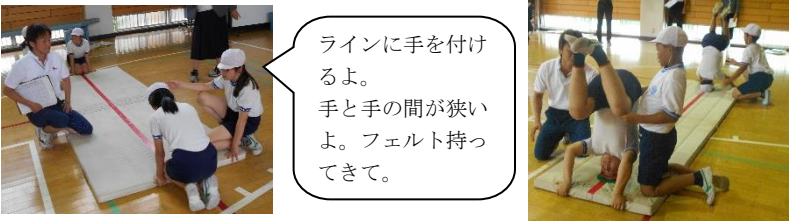

【思考力、判断力、表現力等】

- ・課題の解決の仕方を知り、自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができる。

【学びに向かう力、人間性等】

- ◎ 技や演技を行う中で分かったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりし、仲間の考えや取組を認めることができる。

(2) 展開

時	学習内容・活動	指導のポイント
12	1 整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 折り返しの運動 ・手足走り ・カンガルー ・万歳スキップ ・ウサギ跳び ・カエルの足打ち 5 用具準備 6 予備運動 ・川渡り ・横から側転(大の字回り)	・首や手首などの関節の動きを意識するように声を掛ける。 ★ 【(1) 感覚づくりと学習経験・系統性を重視した指導】 ・技に結び付く動きや感覚を身に付けるために、一つひとつの動きのポイントを確認する。 手を先について… 腰を高く上げよう。 
8	7 頭倒立 ・補助頭倒立 ・頭倒立	★ 【(2) 学習形態の工夫】 ・補助は、倒れない程度に軽く支えるのみでよいことを伝える。 ・膝が伸ばせない児童については、まずは脚を空中に上げてバランスが取れていればよしとすることを伝える。この場合の補助は、引っ張り上げをしてもよいことを伝える。 ラインに手を付けるよ。 手と手の間が狭いよ。フェルト持ってきて。 
17	8 側方倒立回転 ・横から側転(大の字回り) ・ゴム跳び側方倒立回転 ・ゴム掛け側方倒立回転 ・側方倒立回転 ・ロンダート	★ 【(3) 教具の活用】 ・動画資料を使い、動きのポイントを確認する。 ・着地まで一直線になるように。 ・赤いテープに手をつけて。 

		<p>★(2) 学習形態の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、各児童の課題に応じた技の練習をする。補助者は、試技者の申告した技に合わせて教具を使う。 ・ゴム跳び・ゴム掛けについては、試技者の申告により、高さを変える。 ・着手着地と目線の目印として、マット上のテープとフェルト布を意識させる。 ・横から側転ができない児童については、「ゴム跳び（掛け）川渡り」をする。 ・教師は、個人だけでなく、グループ全体への助言を行う。   <p>足の伸びを意識して、スピードをつけるといいよ。足を振り上げる時にも気を付けよう。</p> <p>どこに気を付けたらいい？</p> <p>あとは着地だけだよ。がんばれ！</p> 
9	<p>10 整理運動</p> <p>11 片付け</p> <p>12 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習カード記入 ・感想発表 <p>13 挨拶</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使った部位をゆっくりとほぐしていくように声を掛ける。 ・安全に元の場所へ片付けるように声を掛ける。 <p>★(3) 教具の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きのポイントを確認しながら、自分の動きや仲間の補助・観察を通じ、課題解決に向けて工夫したことや考えたことなどを振り返り、全体で共有する。  <p>『かえるの足打ち』でやった腰を上げる感覚で側方倒立回転をしたらできるようになりました。</p> <p>「側方倒立回転のとき、マット見るようにすると自然に背中が真っ直ぐになる」という友達のアドバイスで、少しきれいにできました。次は、右足を伸ばすことを意識したいです。</p>

(3) 成果と課題

成果

- ① 手だて(1) 感覚づくりとしての『折り返しの運動』が、本時で取り上げた側方倒立回転の技につながることを児童自身も実感することができた。
- ② グループ編成を工夫し、グループ学習での役割を明確にし、相互観察や補助をする中で、技のポイントを教え合う姿が見られた。
- ③ ICT 機器を使用して側方倒立回転を映像で見せたことは、技のポイントを理解する上で有効だった。その知識が、児童同士でのアドバイスに生かされた。

課題

○体育の学習を、食育や保健とどのように結び付けていくかを考えていく。